



有台陳：在縣下捕云

社再建之義就其教

年亦可有屬之計画也之

當時閣下之於其義捐

如本所共得共不幸

之レ成効之遂々之造

憾之年之亦所望也然

以交之股分中廣告

書之通之檢事改訂部長



書之通、檢事、政言、部長
各事、及郡長、字、持、長
其地、主、地、有、志、大、發
把、之、又、再、建、之、行、函
之、為、之、金、負、方、集、集、着
子、罷、在、矣、右、之、學、童
將、夫、勵、之、白、編、一、般、士、衆
此、西、之、二、美、集、事、之、所、之
小、友、之、大、之、精、其、成、努、力、カ、テ
成、効、之、期、之、尽、力、罷、在
決、間、割、不、之、於、之、天、之、義
學、事、之、成、應、分、之、抑

凡興一二美集事之所之
小友其大之積其成努力力
或効之期之尽力器在
夫間閣下之於子其義
舉亦其成應分之所
言附其舉樣政友特
亦依其子乃得去之意
候也

明治廿五年二月十三日

英縣志事構山資雄

伯爵大隈重信殿

白爵大隈重信殿

楠神社再建廣告

嗚呼夫レ其人ノ名ヲ聽テ之ヲ追慕スルノ切ナルハ其人ニ就テ親炙スルノ切ナルニ如カサルナリ是後世祠堂尙像ノ興ル所以シ乎忠アリ孝アルノ人ヲ崇メテ人ノ鏡ニ備フヘシ皇國無双ノ名將忠孝ノ勇士楠河内守正成同帶刀正行兩公ノ像ヲ彫刻シ志アルノ人ニ拜觀セシメ以テ忠孝ノ心ヲ興起セシメント又攝州兵庫ノ塚ヲ見レハ上ニ草木ヲ封植アルノミ是世ニ精忠至孝ノ人ナキカ故ナリトハ舊佐賀藩士深江平兵衛入道信溪楠公父子訣別ノ像ヲ彫刻スル趣意書中ノ骨子ナリ蓋信溪之ヲ其友大木英鉄(大木伯爵ノ祖)及ヒ僧眞阿ニ謀ルニ二氏之ヲ贊成ス尙ホ從四位鍋島光茂朝臣深ク之ヲ嘉賞セラレ其資ヲ賜ヒ公孫太夫士庶人亦各其資ヲ助ク信溪自ラ京師ニ入り父子ノ像ヲ彫刻シ楠止氏及志貴和田恩地湯淺等軍ニ徇ヒ或ハ孤ヲ托セララル、者六人ヲ寵ノ左右屏ニ畫キ北泉永明寺ニ安置シ自ラ香花ヲ供シテ其靈ヲ慰メ世ノ士氣ヲ獎勵セシハ實ニ寛文三年五月二十五日ニシテ水戸中納言光國卿湊川ノ建碑ヨリ廿九年前ノ美譽ナリ世變リ時移リテ其像本庄村高傳寺ノ山門上ニ在リト雖モ人其所在ヲ知ラサルニ至ル文化十三年大塚長徹嘉村穩藏山領利昌之ヲ再興シ西河内梅林庵ニ安置シ嘉永三年藩學教授枝吉經種(副島伯爵ノ實兄)之カ首唱者トナリ義祭同盟會ヲ起シ國老鍋島直高鍋島茂眞及ヒ副島大木大隈伯爵等勤王ノ諸士相會同シテ每次祭典ヲ舉行セシハ之カ名簿ニ炳然タリ然レトモ同盟ノ士多クハ鬼籍ニ上リ或ハ屍ヲ原上ニ暴ラシ或ハ雲上ニ班シテ故山飯臥ノ期ナク終ニ義祭ノ名存シテ其實ナキニ至ル明治維新ノ始メ朝廷主トシテ湊川神社ヲ創建シ之ヲ別格官幣社ニ列シ堂宇ノ壯祭祀ノ盛實ニ世道ヲ維持シ人心ヲ振作スト謂フヘシ續テ四條噉神社亦別格官幣社ニ併列セララル嗚呼信溪カ天下ニ先手之ヲ彫刻シタル赤心始メテ二百年ノ後ニ赫々タリ信溪以テ瞑スベシ雖然觀感ノ功豈ニ官祭ノミニシテ可ナランヤ況ヤ其尊像儼然トシテ此佐賀ニ鎮坐アルニ於テオヤ而シテ安政三年鍋島正二位卿ノ内命ヲ奉シ遷坐セシ龍造寺八幡宮ノ本地堂ハ瓦落チ雨漏リテ之ヲ修繕スル期ナク終ニ尊像ヲ腐朽セシメントスルニ至ル故ニ佐賀皇典講究分所内ヲ假殿トシテ漸ク之ヲ安置スルノ明治十八年楠公五百五十年ノ大祭ニ該リ宇都宮泰玄等四方ニ奔走シテ有志者ニ謀リ社殿ヲ造營シ祭典ヲ舉行センコトヲ主唱シ故佐賀縣令磯田景弼大ニ之ヲ贊成シ殊ニ鍋島侯爵金貳百圓ヲ賜ヒ小城蓮池鹿島子爵及鍋島家ノ親族並ニ地方有志者亦各應分ノ資ヲ投セラレ故ニ龍造寺八幡宮ノ西隣ニ社地數歩ヲ購求シ社務所ヲ建設シ已ニ神殿ノ造營ニ着手セントスルニ際シ事故アリ終ニ中止ノ不幸ニ遭遇スル今ヲ距ル已ニ六年故ニ社地ハ荒蕪トナリ木材亦タ腐朽セントス今ヤ漸ク時來リテ在京貴顯及ヒ佐賀縣知事樺山資雄ノ贊成ヲ得前業ヲ繼續シテ之ヲ再建スルノ設計ヲナスニ至ル希クハ忠君愛國ノ有志諸君應分ノ義財ヲ投シ社殿造營ノ美果ヲ收メ不朽保存ノ方法ヲ建テ以テ兩公ノ尊靈ヲ慰メ且信溪外諸先輩ノ遺志ヲ繼キ益々 皇基ノ尊榮ヲ萬古ニ保全シ秉彝好德ノ淳風ヲ千載ノ下ニ維持セラレンコトヲ

明治廿四年一月 發起人

- | | | | | |
|-------|--------|-------|--------|-------|
| 松井 通昭 | 宇都宮 泰玄 | 田中 坤六 | 小宮山 弘道 | 齊藤 重高 |
| 荒木 卓爾 | 柏倉 一徳 | 田中 清輔 | 松尾 芳道 | 相良 宗藏 |
| 古川 龍張 | 野田 常貞 | 馨治 純喬 | 江副 靖臣 | 石井 翼 |
| 古賀善兵衛 | 伊丹文右工門 | 源作 純喬 | 花房 重治 | 松永彌二郎 |
| 阿部卯太郎 | 深江 種光 | 石丸 源作 | 川浪 實充 | |

- 一 寄附金取扱所 第百六國立銀行 同 蓮池町 第七十二國立銀行
- 一 同 與賀町 榮 銀 行 同 柳 町 三 省 銀 行
- 一 金員領收證ハ各發起人ヨリ之ヲ交付シ且姓名ハ集録シテ永ク神庫ニ收ムヘシ因テ本籍寄留國郡町村位勳氏名ヲ明了ニ記載アルヘシ尙ホ佐賀新聞肥筑日報ニ掲ケテ其厚意ヲ謝スヘシ
- 一 社地ハ已ニ購求スト雖モ寄附金ノ都合ニ依リ他ニ變換スルコトアルベク亦社殿構造ノ廣狹ニモ關スルニ付遅クモ其金額ハ三月十五日迄申込アルヘシ
- 一 明治十八年中金額寄贈ノ諸君ニ於テ其金額及計算ヲ知リタキ向キニハ申告次第之レヲ報告スヘシ尤モ決算ハ今回ノ分ト共ニ竣功ノ上新聞紙上ニテ報告スベシ

佐賀縣 大隈重信殿

眞阿ニ謀ル二氏之ヲ贊成ス尚ホ從四位鍋島光茂朝臣深ク之ヲ嘉賞セラレ其資ヲ賜ヒ公孫太夫士庶人亦各其資ヲ助ク信溪自ラ京師ニ入り父子ノ像ヲ彫刻シ楠止氏及志貴和田恩地湯淺等軍ニ殉ヒ或ハ孤ヲ托セラル、者六人ヲ龕ノ左右扉ニ畫キ北泉永明寺ニ安置シ自ラ香花ヲ供シテ其靈ヲ慰メ世ノ士氣ヲ獎勵セシハ實ニ寛文三年五月二十五日ニシテ水戸中納言光國卿湊川ノ建碑ヨリ廿九年前ノ美譽ナリ世變リ時移リテ其像本庄村高傳寺ノ山門上ニ在リト雖モ人其所在ヲ知ラサルニ至ル文化十三年大塚長徹嘉村穩藏山領利昌之ヲ再興シ西河内梅林庵ニ安置シ嘉永三年藩學教授枝吉經種(副島伯爵ノ實兄)之カ首唱者トナリ義祭同盟會ヲ起シ國老鍋島直高鍋島茂真及ヒ副島大木大隈伯爵等勤王ノ諸士相會同シテ每次祭典ヲ舉行セシハ之カ名簿ニ炳然タリ然レトモ同盟ノ士多クハ鬼籍ニ上リ或ハ屍ヲ原上ニ暴ラシ或ハ雲上ニ班シテ故山飯臥ノ期ナク終ニ義祭ノ名存シテ其實ナキニ至ル明治維新ノ始メ朝廷主トシテ湊川神社ヲ創建シ之ヲ別格官幣社ニ列シ堂宇ノ壯祭祀ノ盛實ニ世道ヲ維持シ人心ヲ振作スト謂フヘシ續テ四條噉神社亦別格官幣社ニ併列セラシ鳴呼信溪カ天下ニ先手之ヲ彫刻シタル赤心始メテ二百年ノ後ニ赫々タリ信溪以テ嘆スベシ雖然觀感ノ功豈ニ官祭ノミニシテ可ナランヤ況ヤ其尊像儼然トシテ此佐賀ニ鎮坐アルニ於テオヤ而シテ安政三年鍋島正二位卿ノ内命ヲ奉シ遷坐セシ龍造寺八幡宮ノ本地堂ハ瓦落チ雨漏リテ之ヲ修繕スル期ナク終ニ尊像ヲ腐朽セシメントスルニ至ル故ニ佐賀皇典講究分所内ヲ假殿トシテ漸ク之ヲ安置スルノ明治十八年楠公五百五十年ノ大祭ニ該リ宇都宮泰玄等四方ニ奔走シテ有志者ニ謀リ社殿ヲ造營シ祭典ヲ舉行センコトヲ主唱シ故佐賀縣令藤田景綱大ニ之ヲ贊成シ殊ニ鍋島侯爵金貳百圓ヲ賜ヒ小城蓮池鹿島子爵及鍋島家ノ親族並ニ地方有志者亦各應分ノ資ヲ投セラ故ニ龍造寺八幡宮ノ西隣ニ社地數歩ヲ購求シ社務所ヲ建設シ巳ニ神殿ノ造營ニ着手セントスルニ際シ事故アリ終ニ中止ノ不幸ニ遭遇スル今ヲ距ル巳ニ六年故ニ社地ハ荒蕪トナリ木材亦タ腐朽セントス今ヤ漸ク時來リテ在京貴顯及ヒ佐賀縣知事樺山資雄ノ贊成ヲ得前業ヲ繼續シテ之ヲ再建スルノ設計ヲナスニ至ル希クハ忠君愛國ノ有志諸君應分ノ義財ヲ投シ社殿造營ノ美果ヲ收メ不朽保存ノ方法ヲ建テ以テ兩公ノ尊靈ヲ慰メ且信溪外諸先輩ノ遺志ヲ繼キ益々 皇基ノ尊榮ヲ萬古ニ保全シ秉彝好德ノ淳風ヲ千載ノ下ニ維持セラレンコトヲ

明治廿四年一月 發起人

- | | | | | |
|-------|--------|-------|--------|-------|
| 松井 通昭 | 宇都宮 泰玄 | 田中 坤六 | 小宮山 弘道 | 齊藤 重高 |
| 荒本 卓爾 | 柏倉 一徳 | 田中 清輔 | 松尾 芳道 | 相良 宗藏 |
| 古川 龍張 | 野田 常貞 | 田中 馨治 | 江副 靖臣 | 石井 翼 |
| 古賀善兵衛 | 伊丹文右工門 | 純喬 | 花房 重治 | 松永彌二郎 |
| 阿部卯太郎 | 深江 種光 | 源作 | 川浪 實充 | |

一 寄附金取扱所 佐賀市水ヶ江町 第百六國立銀行 同 蓮池町 第七十二國立銀行

一 金員領收證ハ各發起人ヨリ之ヲ交付シ且姓名ハ集録シテ永ク神庫ニ收ムヘシ因テ本籍寄留國郡町村位勳氏名ヲ明了ニ記載アルヘシ尚ホ佐賀新聞肥筑日報ニ掲ケテ其厚意ヲ謝スヘシ

一 社地ハ已ニ購求スト雖モ寄附金ノ都合ニ依リ他ニ變換スルコトアルベク亦社殿構造ノ廣狹ニモ關スルニ付遅クモ其金額ハ三月十五日迄申込アルヘシ

一 明治十八年中金額寄贈ノ諸君ニ於テ其金額及計算ヲ知りタキ向キニハ申告次第之レヲ報告スヘシ尤モ決算ハ今回ノ分ト共ニ竣功ノ上新聞紙上ニテ報告スベシ



佐賀縣 大隈村 山道 龍

東京南越豆島郡戸塚村

大字下戸塚七十番地

伯爵大隈重信受